

目 次

【2年前期】

感性学

日本国憲法

体育理論

体育実技

暮らしと環境

【2年後期】

倫理学

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
感性学	平嶋 一臣	2	前期	講義	選択	2
	担当形態	単独		ナンバリング	FN2014	
	担当教員	平嶋 一臣				

【キーワード】	【概要】
1 感性	21世紀は「感性」の時代と言われる。では、なぜ今、このことが重要視されるに至ったのだろうか。そこには、昨今みられる「人間関係の希薄化」「自然体験の形骸化」による人間本来の「自由闊達な発想」力の低下や「人権感覚の欠如」が人間社会の閉塞感をもたらし、これを危惧している姿が浮かんでくる。「人間性回復」のための現状打破が急務なのだ。この世に生を受けたばかりの「ヒト」が、やがて「人」となり、さらに成長し、「人間」へと向かうその過程で、最も大切な学びは、人間的な感性の享受に基づく自己変革である。そのためにも、「感性」「感性教育」の解釈や学びは、曖昧なままでは済まされない。授業では、「感性」の意義、「感性教育」の方法について、できる限り具体的な場面を想定し、自らの五感で確かめる体験型に努める。
2 感性教育	
3 気づき	
4 五感	
5 感覚協働（法）	

【到達目標】
1. 「感性」は、人間にとっての思考・行動の源泉であることに気づき、さらに新たな自分を創造することができる。
2. 人間関係づくりの基本であり前提となる自己の感性磨きに努めることができる。
3. 「感性学」を学び、日々新たな自己発見を行うと共に、他人・他物との共生について主体的に考えることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
-------------------	--

1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	

【思考・判断・表現】	
-------------------	--

1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	

【関心・意欲・態度】	
-------------------	--

1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】

成績指標	定期試験	課題レポート	合計
評価割合 (%)	70	30	100

【成績評価の基準】

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準
----	-------

S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】

毎時、課題レポート提出がある。これを添削し次回の授業前に返却する。返された提出レポートでの気づきや修正点を基に復習を行った後、本時の授業をスタートする。

【教科書】		
【参考書・参考資料等】 平嶋一臣 編・著『講義資料』 感性を考える会編『感性のひらめき』（紅書房）		
【関連科目】 教育方法論・教育原理・教育心理学・幼児教育論		
【受講心得】 事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 毎時間、配布プリントを中心に講義を進める。基本的に欠席は認めない。やむを得ず欠席した場合は、すみやかに平嶋研究室（本館426）で課題を受け取り、次回授業の前日までに提出する。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション・「感性」の時代がやってきた（含・「感性」に関するアンケート）		<学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要および事前・事後の学習の仕方について説明する。なお、今後の参考とするために、「感性」についてのアンケートを行う。 <事前学習>15回分の講義要項（シラバス）に目を通し、質問内容をまとめておく。（0.5時間） <事後学習>15回の講義要項の概要を再確認しておく。（0.5時間）
2 「感性」についてのさまざまな研究事例を知る（感性を哲学する）		<学習内容>教育史における「感性」研究の変遷を知り、今後の「感性学」研究の在り方を、哲学（美学）的視点から捉え、今後の受講に、各自、より明確な方向性を持つ。 <事前学習>自分の考える「感性」を発表・説明できるよう、あらかじめ200字程度にまとめておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
3 義務教育期における「感性教育」の実態を知る（感性育ては可能か？）		<学習内容>そもそも、「感性」は教育できるものなのか、先天的なものなのか、幼児・児童・生徒の発達段階と教育との関係を、自らの幼・小・中期の体験・経験と重ねて考える。 <事前学習>あらかじめ、「教育方法」「教育原理」「教育心理学」に関する本を最低1冊は読み込んでおく。持っていない場合は図書館から借りる。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
4 幼児期における感性教育の重要性を考える（脳生理学的視点から）		<学習内容>「感性」は育つもの・育てられるものであることを前提に、幼児期および脳生理学的な見地から、幼児期における「感性教育」の重要性に気づく。 <事前学習>脳の構造図を基に、最下層感覚部から上層感覚部までの積み重ねの具体的な位置について調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
5 絵画の世界に潜む作者および自分の感性を知る		<学習内容>モジリアーニの絵を題材に、目と耳の感覚を協働させ、作者の絵画表現を批評する。またミロの抽象画から、ファンタジック物語の創作も試みる。 <事前学習>図書館にある日本・世界の名画全集から一巻を選び、新たな「気づき」を報告できるよう準備する。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）

6	音楽の世界に潜む作者および自分の感性を知る	<p><学習内容>日本民謡に表われる地域性および日本と西洋の子守唄の成立過程について学び、その根本的な違いに気づくとともに、旋律・リズム・歌詞の関係を考える。</p> <p><事前学習>自分の故郷の民謡や、自分の聴いた子守唄について、紹介できるようにまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
7	書(線)・書のリズムに表われる、作者および自分の感性を考える(「書は人なり」について)	<p><学習内容>空海・最澄の往復書簡を題材に、二人の書跡の根本的な違いを学び、その後の交流の断絶という事実との関連性を考えることができる。</p> <p><事前学習>これまでの「習字」や「書道」の体験から、自分の「書」に対する印象を200字程度にまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
8	文学の中に表われる感性について学ぶ(小説・散文を中心に)	<p><学習内容>芥川龍之介作『鼻』を通し、若き日の作者が見抜き描き訴えたかった人間の自尊心や弱点を知るとともに、人は如何に生きるべきかについて、自分の考えを持つ。</p> <p><事前学習>芥川の短編集を読み、「人間」をキーワードに、その底流に流れる作者の訴えをまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
9	文学の中に表われる感性について学ぶ(短歌・俳句を中心に)	<p><学習内容>世界で最も短い詩と言われる伝統俳句・自由律俳句を読み、そこに潜む日本(人)独特の感性に気づくとともに、批評精神の基本を学ぶ。</p> <p><事前学習>芭蕉・蕪村・一茶・子規の俳句および新聞五紙の歌壇から、自分の印象に残った作品をメモしておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
10	日本の伝統芸能(能)に表われる独特の感性について学ぶ	<p><学習内容>日本の伝統的な芸能である能『隅田川』に見られる、観世元雅独特の発想・脚本・演出と父・世阿弥の演出法との対立から、そこに潜む日本的感性について考える。</p> <p><事前学習>日本の伝統文化・伝統芸能について、そのジャンルを説明できるまでになっておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>

1 1	スポーツおよび芸術と感性の表われを知る (感性の諸様相について)	<p><学習内容>勝ちにこだわるスポーツマンの存在について再考し、今後、スポーツの在り方は如何にあるべきか、その原点として、「感性磨き」との関連性を考える。</p> <p><事前学習>昨今のスポーツマンの不祥事について、自分はどう考えるのか、あらかじめ意見をまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 2	人間力・コミュニケーション能力と感性との関係を知る	<p><学習内容>「感性」の豊かさや不足は、現実の世界でどのような結果をもたらすのか、具体的な事例や経験を挙げ、実生活上の人間関係性との接点について考える。</p> <p><事前学習>過去の経験から、「感性」豊かな人の行動と結果、「感性」不足による失敗の事例をまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 3	人権感覚と感性育てとの相関を考える	<p><学習内容>古典落語『あたま山』の背後に潜む人間社会の暗部に気づく。また常の人権感覚維持には、自己についての冷静な振り返りと客観的な分析が求められることを知る。</p> <p><事前学習>過去に学んだ人権学習を想起し、特に印象に残っている授業について、発表できるようまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 4	情報化社会における感性の在り方を考える (主に映像・メディア・マスコミの態様を中心に)	<p><学習内容>インターネットと新聞の情報の基本的な違いに気づき、「感性」不足が実生活においてどのような結果につながるかについて考える。</p> <p><事前学習>ネット情報と新聞のリード記事・本文との比較資料をあらかじめ(図書館などで調べ)準備しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 5	人間の幸せについて考える(経済的貧国と精神的な豊かさについてブータン国を例に)	<p><学習内容>人間の幸せとは何なのか。幸せの原点を、経済的な豊かさ・精神的な豊かさの相関について考え、ブータン国やその国民性を基に、自分の幸福観・幸福論を持つ。</p> <p><事前学習>GNP・GDP・GNHの意味を再確認し、ブータン国の世界的評価について、多面的な角度から調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 6	定期試験	<p><学習内容>15回の授業を終え、「感性学」についての基本用語の理解および多分野において自分の考えを持つことができたか客観的に知る。</p> <p><事前学習>これまでに渡した15冊の資料集を振り返り、印象に残っている題材や資料を中心に復習しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>本日の試験を振り返り、『感性学』の授業受講後の自分の変化・成長についてまとめる。(1時間)</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
日本国憲法 (食物栄養学科)	阿 晃生	2	前期	講義	選択	2
	担当形態	単独	ナンバリング		FN2103	
	担当教員	阿 晃生				

【キーワード】	【概要】
1 国家 2 天皇 3 基本的人権 4 平和主義 5 憲法改正	日本国憲法は日本の国家と社会の基盤となる最も重要なルールであり、我々の生活と深く繋がっている。近年「憲法改正」という声を強く聞くようになったが、我々はまず憲法とは何であり、何が書いてあり、どの様に運用されているかをしっかり理解する必要がある。講義では論理的能力を養うことにも留意し、最新の情報も取り入れながら、憲法全般にわたって解説を進めていく。

【到達目標】
1. 法的思考を養うことができる。 2. 憲法の役割を理解できるようになる。 3. 憲法改正の議論にも対峙できるようになる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
-------------------	--

1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。	○
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。	
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。	

【思考・判断・表現】	
-------------------	--

1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。	

【関心・意欲・態度】	
-------------------	--

1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。	○
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】

成績指標	定期試験	受講態度等	合計
評価割合 (%)	80	20	100

【成績評価の基準】

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準					
----	-------	--	--	--	--	--

S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
試験終了後、質問に来た生徒に対し、模範解答、及び解答のポイント等を伝える		
【教科書】		
「法学」叢書（2）憲法 宮沢俊義著 勁草書房		
【参考書・参考資料等】		
「憲法（第6版）」芦部信喜（高橋和之補訂）岩波書店・「憲法改正がなぜ必要か」八木秀次PHPパブリッシング		
【関連科目】		
「人間学」「社会福祉」「社会的養護」「教育原理」		
【受講心得】		
授業中のマナー（携帯電話、私語、途中退出）については厳しく対処する。		
【備考】		
講義による。（質問等は原則授業終了後）		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 ◦オリエンテーション □第1章序章		（学習内容）テキストP1～P3 初回授業であるため、「法とは何か」「国家とは何か」についてゆっくりめに話を進める。 （事前学習）講義要項（シラバス）に目を通しておく（週1時間） （事後学習）日本の領土問題について地図帳で確認しておく（週1時間）
2 ◦憲法の形式、性質、制定主体による分類 ◦人の支配から法の支配 □第2章日本国憲法のおいたち ◦大日本帝国憲法（明治憲法）の成立と特色		（学習内容）テキストP4～P9 日本国憲法が成文憲法、硬性憲法、民定憲法であり、近代的意見の憲法であることを十分に理解する。また日本国憲法が大日本帝国憲法改正という形で制定されたことを踏まえ、大日本帝国憲法についても理解を深める。 （事前学習）前回分のテキスト及びノートを見直す（週1時間） （事後学習）大日本帝国憲法の成立前後についてよく確認しておく（週1時間）
3 ◦大日本帝国憲法（明治憲法）の特色とそのあゆみ ◦日本国憲法の成立		（学習内容）テキストP10～P16 明治憲法中の絶対天皇制的反民主主義思想の拡大について、当時の歴史の流れとともに解説する。また敗戦直後にマッカーサーの指示により日本国憲法が形作られていく過程を再現する。 （事前学習）前回分のテキスト及びノートを見直す（週1時間） （事後学習）特に占領下における日本国憲法の成立過程（マッ
4 □第3章日本国憲法の基本原理		（学習内容）テキストP17～P21 テキストに従って民主主義、個人の尊厳、国民主権、社会国家と話を進める。 （事前学習）前回分のテキスト及びノートを見直す（週1時間） （事後学習）主権の意味を押さえる。また近代国家の理念と現代国家の理念の変遷を押さえる（週1時間）
5 平和主義 □第4章国民		（学習内容）テキストP22～P25 平和主義について前文及び第2章第9条を詳しく解説し、今日の政府見解を交え日本の防衛について考える。また国籍の問題や人権宣言の歴史について解説する。 （事前学習）前回分のテキスト及びノートを見直す（週1時間） （事後学習）前文及び第2章第9条はこの講義のハイライトである。（週1時間）
6 ◦基本的人権 ◦日本国憲法第三章の内容		（学習内容）テキストP26～P31 自由権、平等権、社会権、参政権、請求権といった基本的人権、なかでも自由権、社会権は過去の裁判事例にも触れて解説する。（事前学習）前回分のテキスト及びノートを見直す（週1時間） （事後学習）自由権のなかでも精神的な自由については特に注意を要する（週1時間）
7 ◦日本国憲法第三章の内容		（学習内容）テキストP32～P36 前講の続きで特に社会権の成立とその内容について説明する。 （事前学習）前回分のテキスト及びノートを見直す（週1時間） （事後学習）生存権の規定は注意を要する（週1時間）

8	<input type="checkbox"/> 第5章天皇	<p>《学習内容》テキストP37～P43 天皇制と天皇の機能等をテキストに沿って説明する。また天皇の生前退位、女性・女系天皇の容認、女性宮家創設等の問題にも触れる。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)象徴天皇制の意味をしっかりと理解する(週1時間)</p>
9	<input type="checkbox"/> 第6章国会	<p>《学習内容》テキストP44～P49 国会は国権の最高機関であって国の唯一の立法機関であるとされるが、その組織について、また議員の選挙や地位について講義する。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)特に衆議院の優越についてしっかりおさえておく(週1時間)</p>
10	<input type="checkbox"/> 第7章内閣	<p>《学習内容》テキストP50～P58 前講に引き続き国会についての解説であるが、国会の種類、国会の会期、国会や各議員の権能等について学ぶ。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)国会の権限についてまとめておく(週1時間)</p>
11	<input type="checkbox"/> 第7章 内閣	<p>《学習内容》テキストP59～P64 行政権を担う内閣の組織、職務、活動及び内閣と国会との関係について説明する。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)大統領制と議院内閣制の比較も重要(週1時間)</p>
12	内閣の衆議院解散権 <input type="checkbox"/> 第8章 裁判所	<p>《学習内容》テキストP65～P70 前回の講義の補足(内閣)し、司法権について裁判の権類、裁判所の分類、司法権の独立、裁判官の身分保障等の説明をする。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)裁判の三審制について確認しておく(週1時間)</p>
13	<input type="checkbox"/> 第8章 裁判所 <input type="checkbox"/> 第9章 財政	<p>《学習内容》テキストP71～P75 前講に引き続き裁判所についての解説であるが、最高裁判所、法令審査権の説明と、冤罪、裁判員制度等にも言及する。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)違憲法令審査権は重要(週1時間)</p>
14	財政 <input type="checkbox"/> 第10章 地方自治	<p>《学習内容》テキストP76～P80 前講からの財政、さらに地方自治について講義する。地方自治体の本旨、地方自治体の組織と権限、直接請求権について説明する。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)国にはないリコールの制度についてまとめておく(週1時間)</p>
15	地方自治 <input type="checkbox"/> 第11章 法令 全体のまとめ、定期試験について	<p>《学習内容》テキストP81～86 前講からの地方自治についてのまとめとして、地方自治の課題、さらに法令について解説する。全体のまとめと関連する本の紹介をし、試験についても言及する。 (事前学習)前回分のテキスト及びノートを見直す(週1時間) (事後学習)憲法改正へ対峙できる見識を持ってほしい(週1時間)</p>
16	定期試験(筆記試験)	<p>テキスト、自筆のノート、配布のプリント等、持ち込みを可とする。</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
体育理論	松田 晃二郎	2	前期	講義	選択	1
	担当形態	単独	ナンバリング		FN1114	
	担当教員	松田 晃二郎				

【キーワード】	【概要】
1 生活習慣病	現代社会では身体活動量の減少に伴い、生活習慣病の蔓延や子供の体力低下が懸念されている。また、同時に日本人がどのようにすれば明るく楽しく豊かな生活様式・生活の質（QOL）の向上を図ることができるかが課題となっている。すなわち、生涯にわたって健康生活を維持するためには、ライフスタイルに活発な身体活動や運動を取り込むことが必要である。そこで「身体活動・運動と健康」に重点を置き、自身のライフスタイルを振り返り考察する。また、成長期から高齢期まで幅広い年代の特徴を踏まえ、身体活動が身体に及ぼす効果について科学的に理解を深めていく。※理解度や進行度により、授業内容を変更することもある。
2 QOL	
3 身体活動	
4 食生活	
5 ライフスタイル	

【到達目標】
1. 身体運動が身体に及ぼす効果について科学的に理解できる。 2. 生涯を通じて明るく豊かな生活を楽しむための体育・生涯スポーツの必要性について説明できる。 3. 日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。	
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。	
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。	

【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。	

【関心・意欲・態度】	
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	受講態度等	合計
評価割合（％）	60	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 小テスト等の行い，それに対するフィードバックを当該テスト実施の次講義の初めに口頭で行う。		
【教科書】 必要に応じて資料配布を行う。		
【参考書・参考資料等】 随時紹介		
【関連科目】 「体育実技」		
【受講心得】 積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。		
【備考】 保育士課程必修、幼稚園教諭課程必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 はじめに		【学習内容】 講義全体のガイダンスと，体育や身体活動がヒトに及ぼす影響について簡単に説明する。 【事前学習】 体育授業がなぜ大学生に必要なのかを考え，必要に応じて新聞や書籍，論文等を通じて調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り，理解を深める（1時間）。□
2 身体活動と健康 (自身のライフスタイルを振り返る)		【学習内容】 身体活動と健康との関係を，大まかに説明する。また，生涯スポーツについての説明もする。 【事前学習】 新聞や書籍，論文等を通じて，身体活動が健康に及ぼす何らかの肯定的な効果を調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り，理解を深める。また，日常生活活動への応用する（1時間）。□
3 運動と生活習慣病①		【学習内容】 身体活動と生活習慣病との関係を，先行研究の結果を紹介しながら，説明する。 【事前学習】 新聞や書籍，論文等を通じて，生活習慣病とは何かを調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り，理解を深める。また，日常生活活動への応用する（1時間）。
4 運動と生活習慣病②		【学習内容】 身体活動と生活習慣病との関係を，先行研究の結果を紹介しながら，説明する。 【事前学習】 新聞や書籍，論文等を通じて，身体活動が生活習慣に及ぼす何らかの肯定的な効果を調べてくる（1時間）。 【事後学習】 講義の内容を振り返り，理解を深める。また，日常生活活動への応用する（1時間）。

5	子ども・高齢者と身体活動	<p>【学習内容】 子どもや高齢者に対する身体活動の役割を説明する。</p> <p>【事前学習】 なぜ身体活動は、子どもや高齢者に必要なのかを考え、必要に応じて、書籍や論文通して調べてくる（1時間）。</p> <p>【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める（1時間）。</p>
6	身体活動と体力（有酸素運動を中心に）	<p>【学習内容】 体力とは何か、身体活動は体力とどのように関係しているかを説明する。</p> <p>【事前学習】 どのような身体活動がどのような体力に影響を及ぼすのかを考え、必要に応じて、書籍や論文通して調べてくる（1時間）。</p> <p>【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、日常生活活動への応用する（1時間）。</p>
7	運動と栄養 (エネルギー出納バランスの観点から)	<p>【学習内容】 運動と栄養の関係性について説明する。</p> <p>【事前学習】 運動の効果を促進するための栄養補給について考え、必要に応じて書籍や論文等を通して調べてくる（1時間）。</p> <p>【事後学習】 講義の内容を振り返り、理解を深める。また、日常生活活動への応用する（1時間）。</p>
8	まとめ	<p>【学習内容】 これまで講義内容を振り返りながら、試験対策の講義を行う。</p> <p>【事前学習】 これまでの7回の講義におけるノートを整理する（2時間）。</p> <p>【事後学習】 講義の内容を整理しながら、試験に向けて準備する（3時間）。</p>
9	試験	

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
体育実技	谷川 裕子	2	前期	実技	選択	1
	担当形態	複数	ナンバリング		FN2102	
	担当教員	松田晃二郎 石原勇次郎 田上友季也				

【キーワード】	【概要】
1 教養科目	「身体活動の楽しさや喜びを自ら体験するとともに、その喜びを他者にも提供できる」ことを目的とし、人とのコミュニケーションを含むさまざまな身体活動を行なう。高校までの体育で培った技能や経験は人により様々である、体育技能は多様性が表れやすいため、本授業はこれまでの技能のみには頼らない、多様性を認め、活かすチームワークづくりを目指すスポーツ・運動を行う。 また運動が健康に与える影響について身を持って体験し、健康を維持していくための運動強度を学習する。自分自身の体力レベルを知るために簡易な測定法を用いて、実際に体力レベルを測定する。 ※理解度や進捗度、施設の状況などにより、授業内容を変更することもある。
2 運動	
3 健康	
4 体力	
5 チームづくり	

【到達目標】
1. 運動を通じて、自らの健康を維持・改善していくための資質や能力を養うことができる。
2. 多様性を認め、活かしていくチームが作れる。
3. 日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。	
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。	
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。	

【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。	

【関心・意欲・態度】	
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】			
成績指標	受講態度	課題提出	合計
評価割合 (%)	80	20	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0

評語	評価の基準					
S	実技内容を十分に理解しており、積極的な参加活動が見られ尚且つ他者を理解に立った自己主張ができ、課題解決できる。					
A	実技内容を理解しており、積極的な参加が見られるものの、他者関係を良好に保ち、課題解決に達する。					
B	実技内容を総じて理解しているが、受動的な参加であり、自己表現に及ばないが課題を行うことができる。					
C	実技内容の概要を理解しており、実技、提出課題に対して最低限の参加があった。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】
試験終了後、模範解答とコメントを返却するので確認して返答すること。

【教科書】 資料配布		
【参考書・参考資料等】 随時紹介		
【関連科目】 「体育理論」		
【受講心得】 積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。 毎回、ジャージ、体育館シューズを着用のこと。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション（身体ほぐしの運動）	全員	【学習内容】本授業の流れを説明、身体ほぐしをワークを行う。 【事前学習】シラバスを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
2 体力測定	全員	【学習内容】体力測定（握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び）を行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
3 体力測定	全員	【学習内容】体力測定（持久力）を行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
4 体力測定	全員	【学習内容】体力測定の振り返りを行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
5 ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
6 ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
7 ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）

8	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
9	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
10	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
11	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
12	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
13	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
14	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う【事前学習】ルールを確認しておく（30分）【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
15	まとめ	全員	【学習内容】運動・スポーツを通して得られた経験をまとめる。【事前学習】今までの授業の総復習を行う（1時間）【事後学習】本授業で得られた知識を今後の活動に活かせるようまとめる（1時間）

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
暮らしと環境	都築 廣久	2	通年	講義・演習	選択	2
	担当形態	複数	ナンバリング		FN2105	
	担当教員	都築 廣久、今村 隆信、宅間 真佐代、 下村 久美子、橋本 聖子、松藤 泰代、津村 有紀				
【キーワード】	【概要】					
1 食育	学生が奉仕活動と学習活動を兼ねた「サービスマーケティング」に取り組み、併せて全学的な広報活動、学内で実施される学科主体の講座、学外企業との共同企画に係わることにより、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ボランティア精神の涵養を図る。また、宿泊体験も兼ねた集団での共同生活（食育キャンプ）を通じて見聞を広げ、自発性、協調性、積極性及び表現力を磨くこととする。					
2 環境						
3 ボランティア						
4 社会貢献						
5 公開講座						
【到達目標】						
1. 全学的な活動で自己を成長させることができる。 2. 奉仕活動への意識を増長させることができる。 3. 地域貢献活動の成果を認識することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						○
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						○
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						○
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						○
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						○
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						○
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						○
【成績評価の方法】						
成績指標	取り組み姿勢		課題・提出物		合計	
評価割合 (%)	60		40		100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物に必要な内容を的確に記述している。					
A	取り組み内容を十分に理解しており、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。					
B	取り組み内容を理解しているが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。					
C	取り組み内容の概要を理解しているが、課題・提出物が最低限の内容の記述に留まっている。					
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】						
取り組み姿勢とレポートに関するコメントを返却する。						
【教科書】						
特に指定しない。適宜資料を配付する。						

【参考書・参考資料等】 特に指定しない。		
【関連科目】 「純真ゼミナールⅠ」「純真ゼミナールⅡ」		
【受講心得】 自ら積極的に活動に取り組む姿勢をもつこと。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	都築 宅間 今村	<p>＜学習内容＞授業の目的と具体的な全学的な広報活動例、学内で実施される学科主催の講座、学外企業等との共同企画を紹介する。</p> <p>＜事前学習＞ボランティア活動について調べておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞履修への思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」にまとめて提出する。（1.0時間）</p>
2	今村	<p>＜学習内容＞ボランティアとは何かについて、その特性や意義、役割等を通して学習するとともに、グループ協議を行いまとめる。</p> <p>＜事前学習＞自身が体験したボランティア活動についてまとめておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞学習したことをグループでレポートとしてまとめ、提出する。（1.0時間）</p>
3	今村	<p>＜学習内容＞生涯学習の観点から、ボランティア活動の動きや社会的な役割について理解を深める。</p> <p>＜事前学習＞生涯学習について調べておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞生涯学習とボランティアについてグループでレポートにまとめて提出する。（1.0時間）</p>
4	今村	<p>＜学習内容＞生活環境にかかわるボランティア活動と生きることに関するボランティア活動の種類と意義について理解を深める。</p> <p>＜事前学習＞ボランティア活動の種類について調べておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞自分たちがボランティア活動に参加するとして、グループでレポートにまとめて提出する。（1.0時間）</p>
5	宅間 下村 松藤 津村	<p>＜学習内容＞UR都市機構、福岡市南区健康課・衛生課との共同企画によって開催する「料理教室」において食に関する講話や調理、実習、ワークなどを行う。</p> <p>＜事前学習＞料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞取り組んだコラボ企画の事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>
6	宅間 下村 松藤 津村	<p>＜学習内容＞UR都市機構、福岡市南区健康課・衛生課との共同企画によって開催する「料理教室」において食に関する講話や調理、実習、ワークなどを行う。</p> <p>＜事前学習＞料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞取り組んだコラボ企画の事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>
7	都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村	<p>＜学習内容＞庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p>＜事前学習＞食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>
8	都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村	<p>＜学習内容＞庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p>＜事前学習＞食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p>＜事後学習＞食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>

9	食育キャンプ (3)	都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村	<p><学習内容>庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p><事前学習>食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>
10	食育キャンプ (4)	都築 今村 宅間 下村 橋本 松藤 津村	<p><学習内容>庄内生活体験学校において、自炊体験、集団生活、日常生活、動物飼育（ヤギとウサギ）、農作業（野菜作り、収穫）を通じて自主性・協調性・耐性を養う。</p> <p><事前学習>食事のメニューと役割分担を考えておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>食育キャンプの終了後、事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>
11	公開講座 (1)	宅間 下村 松藤 津村	<p><学習内容>小学生を対象にした「ランチにチャレンジ講座」を開催する。</p> <p><事前学習>料理メニュー、食材の下処理、媒体の作成を行う。（1.0時間）</p> <p><事後学習>公開講座の事後レポートを作成・提出する。（1.0時間）</p>
12	公開講座 (2)	都築 橋本	<p><学習内容>小学生を対象にした「サイエンスにチャレンジ講座」を開催する。</p> <p><事前学習>試薬の調製、媒体の作成、食材の下ごしらえをしておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>公開講座の事後レポートをまとめておくこと。（1.0時間）</p>
13	実践報告会 (1)	都築 宅間 今村	<p><学習内容>ボランティア論、親子レシピ講座、食育キャンプ及び公開講座で学んだことを中心に報告する。</p> <p><事前学習>様々な取り組みで学んだ内容をまとめて発表資料を用意しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>様々な取り組みについて「事後レポート」をまとめておくこと。（1.0時間）</p>
14	実践報告会 (2)	都築 宅間 今村	<p><学習内容>ボランティア論、親子レシピ講座、食育キャンプ及び公開講座で学んだことを中心に報告する。</p> <p><事前学習>様々な取り組みで学んだ内容をまとめて発表資料を用意しておくこと。（1.0時間）</p> <p><事後学習>様々な取り組みについて「事後レポート」をまとめておくこと。（1.0時間）</p>
15	まとめ	都築 宅間 今村	<p><学習内容>初回から第14回までの内容の総まとめを行う。</p> <p><事前学習>親子レシピ講座、公開講座の補助、食育キャンプなどの成果をまとめておく。（1.0時間）</p> <p><事後学習>履修した感想や学びの達成観などを「事後レポート」にまとめて提出する。（1.0時間）</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
倫理学	石橋 孝明	2	後期	講義	選択	2
	担当形態	単独	ナンバリング		FN2101	
	担当教員	石橋 孝明				

【キーワード】	【概要】
1 生命倫理	人間だけが自覚的に生き、そして死んでいく。では、わたしたちは、どのように生き、死んでいこうとするのか。よく生き、よく死ぬことを目指すのではないだろうか。本講義では、このよく生き、よく死ぬことを、具体的な場面を設定することで考察し、生命の問題を倫理的視点のもとに考えていく。そして、このことを通して、倫理学の諸問題について考える。具体的事例としては、1970年代以降アメリカを中心に形成された「生命倫理学」の諸問題などを挙げて講義する。
2 人権	
3 生	
4 死	
5 労働	

【到達目標】
1. 人権について倫理的視点から問うことができる。
2. 生と死について倫理的視点から問うことができる。
3. 自ら考え、問題を解決していくことができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
------------------------------	-----

【知識・理解・技能】	
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。	
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。	
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。	

【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。	

【関心・意欲・態度】	
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】			
成績指標	定期試験	課題への取組	合計
評価割合 (%)	60	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題提出の次の授業で提出された内容についてコメントする。		
【教科書】 なし		
【参考書・参考資料等】 『よく生き、よく死ぬための、生命倫理学』 篠原・石橋 編 ナカニシヤ出版 その他は講義中に指示する。		
【関連科目】		
【受講心得】 ノート講義（パワーポイント使用）、筆記用具を持参し、受講中は私語・携帯電話操作等をせず、授業に集中すること。 学生との相談・授業の進行状況により授業計画の一部変更もありうる。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 倫理学とは何か	<学習内容>資料を配布しパワーポイントで倫理学とは何か、そしてどのようなテーマについて授業をしていくのか等について説明する <事前学習>シラバスを見て授業内容がどのようなものになるのか考えてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
2	人権について考える（1）問題提起	<学習内容>人権はどのようにして確立されてきたかを歴史的に振り返り、人権についてどのような主張がなされているかを例を挙げて説明し問題提起する <事前学習>人権とは何かを自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
3	人権について考える（2）性同一性障害	<学習内容>性同一性障害の人権問題を考える、同時にLGBTの権利主張についても考える <事前学習>性同一性障害について自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
4	人権について考える（3）いじめ	<学習内容>いじめについて子どもたちの心理状態や発生機序、保護者や教員が見過ごしやすい理由などについて考える <事前学習>いじめについて自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
5	人権について考える（4）死刑制度	<学習内容>人を殺すことについての倫理的考察を行ない、死刑制度についての賛否両論について考える <事前学習>死刑制度について自分なりに下調べをしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
6	生命について考える（1）生殖医療	<学習内容>出生前診断や着床前診断、遺伝子治療、人工妊娠中絶、優生学、胚の倫理的・法的権利等、生殖医療にかかわる諸問題について考察する <事前学習>生殖医療について自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
7	生命について考える（2）臓器移植	<学習内容>臓器移植医療における人間観について考える、科学的人間観とは何かが見えてくるだろうし、私とは何かについて考えさせてくれる <事前学習>臓器移植医療について自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）

8	生命について考える (3) 安楽死・尊厳死	<p><学習内容>終末期医療の問題について考察する。安楽死、尊厳死、ホスピスについてその内容を説明し、自らのそして家族の終末について考える</p> <p><事前学習>安楽死、尊厳死、ホスピスについて調べてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
9	生命について考える (4) ブタがいた教室 (ビデオ鑑賞)	<p><学習内容>小学校高学年の総合的学習の時間でなされた「ブタを飼いそれを食べるという取り組み」のビデオを観ることで、生命について考える</p> <p><事前学習>自分が教師なら、あるいは小学生ならこの取り組みをするかどうかを色々な観点から考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料に自分の意見をまとめる (1時間)</p>
10	生命について考える (5) ブタがいた教室 (討議)	<p><学習内容>ビデオを観てまとめてきたことを発表しあい、共通の注目点について議論を深めていく</p> <p><事前学習>自分でまとめた内容について要点を発表できるようにしてくる (1時間)</p> <p><事後学習>議論したことをもう一度自分なりに考えてみる (1時間)</p>
11	働くことについて考える (1) 働くことの意味	<p><学習内容>私たちはなぜ働くのかを考える。働くことは自分にとってどんな意味があるのか、そして働くことは対他関係の中でどんな意味をもつのかを考える</p> <p><事前学習>私たちはなぜ働くのか自分なりに考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
12	働くことについて考える (2) 栄養士として働く	<p><学習内容>栄養士として働くことを、前回の授業を踏まえて、様々な視点から考えていく</p> <p><事前学習>自らが就こうとしている仕事の、自分にとっての意味、社会の中での意味を考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
13	生きることと死ぬこと (1) 私の中のあなた (ビデオ鑑賞)	<p><学習内容>姉を助けるためにデザイナーベビーとして生まれた妹の反乱をめぐる家族の葛藤について、ビデオを観ることで生きること死ぬことについて考える</p> <p><事前学習>生殖医療の時間に扱ったデザイナーベビーのことを振り返り、自分の身に置き換えて考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料に自分の意見をまとめる (1時間)</p>
14	生きることと死ぬこと (2) 私の中のあなた (討議)	<p><学習内容>ビデオを観てまとめてきたことを発表しあい、共通の注目点について議論を深めていく</p> <p><事前学習>自分でまとめた内容について要点を発表できるようにしてくる (1時間)</p> <p><事後学習>議論したことをもう一度自分なりに考えてみる。(1時間)</p>
15	講義の振り返り	<p><学習内容>これまでの講義のポイントを振り返り、とりわけ関心の持ったテーマについてタイトルを付し、論述する。時間がくるまでいくつかのテーマについて論じる</p> <p><事前学習>配布した資料を見返して、これまでの授業でどんなことを考えたか振り返ってくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に論じた内容を推敲する (1時間)</p>
16	試験	